

方向

行政活動の基礎的な単位となる個々の具体的「事務事業」だけでなく、これらの「事務事業」を包括した基本的方針を示す「政策」そのものについても、市民とともに評価を行うことのできるしくみを整え、評価から得られた成果を「政策」や「事務事業」の見直しと新たな形成につなげる。

評価

C

(c)

客観指標については、評価にaからeまでばらつきがあり、公共事業評価後の事業進捗に関する項目でe評価であるなど、全体としては昨年度を下回るものの、公共事業評価に関する項目など2項目がa評価であり、全体としては良い状況である。
市民生活実感については、市民の評価の仕組みに関してはc評価であるが、公共事業の点検に関してはd評価であり、悪い状況である。
客観指標評価及び市民生活実感評価を総合的に勘案し、この政策の目的はそこそこ達成されていると評価する。

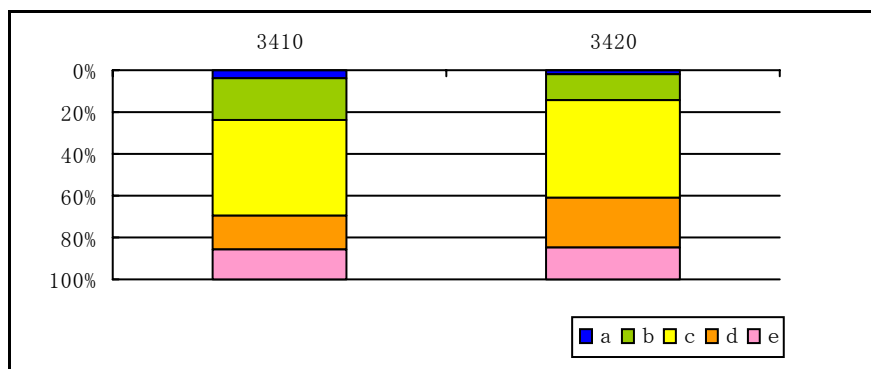
○政策の評価に用いる客観指標の最新値と評価

b (a)

3410 事務事業評価サポーター数(人)	45 c (-)
3410 政策評価における客観指標のうち、目標値が設定できた指標の割合(%)	73.7 a (a)
3420 (準)フォローアップ事業のうち、進捗率がすぐれない事業の割合(%)	83.3 e (-)
3420 再評価を行った総事業数のうち、完了した総事業数の割合(%)	20 a (b)

○市民生活実感評価

d (d)



※ 市民生活実感調査

答a: そう思う

答b: どちらかというと思う

答c: どちらとも言えない

答d: どちらかというと思わない

答e: そう思わない

3410 このアンケートなど、市民が市の仕事を評価する仕組みが整っている。 c (c)

3420 公共事業の再評価によって事業の点検がしっかりできている。 d (d)

＜参考＞この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	市民とともに行う評価のしくみづくり	評価:
3410 概要	「政策」や「事務事業」の状況，本市の財政状況等を分かりやすく市民に伝える方法を工夫し，時代状況に応じて充実することにより，市民と共に評価を行える仕組みをつくる。	C (C)
施策名	公共事業の再評価	評価:
3420 概要	公共事業の効率化・重点化と実施過程の透明化を図るため，事業着手後一定期間を経過したものを中心に，第三者機関による再評価を行い，必要な見直しを行う。	B (B)